



2024年5月13日

各 位

会 社 名 株式会社ミロク情報サービス
代表者名 代表取締役社長 是枝周樹
(コード番号 9928 東証プライム市場)
問合せ先 経営管理本部長 佐藤順一
(TEL. 03-5361-6369)

「サステナビリティ 2030」および「中期経営計画 Vision2028」策定のお知らせ

当社グループは、「サステナビリティ 2030」および「中期経営計画 Vision2028」(2024-2028年度)を策定しましたのでお知らせします。2021年5月13日に策定した「中期経営計画 Vision2025」(2021-2025年度)について、社内外の環境変化もあり計画と実績に乖離が生じてきている状況を踏まえ、次のステージに進むための新たな成長戦略を再考し、2028年度までを対象期間とする「中期経営計画 Vision2028」としてアップデートしました。

1. 「中期経営計画 Vision2025」の振り返り

中期経営計画 Vision2025 の最終年度である2025年度において、連結売上高550億円、経常利益125億円と、過去最高の売上高・経常利益の達成を目標としていました。

当社単体の本業であるERP事業においては、サブスクリプション型収益モデルへの移行を進めながらも大きく成長し、既に2023年度で売上高は2025年度の目標数値を上回っており、2025年度には中期経営計画 Vision2025 で目標としていた経常利益の達成も見込まれる状況です。

一方、新規事業として先行投資をしている統合型DXプラットフォーム事業については、収益化の進捗が遅延しています。子会社であるトライベック株式会社が、中小企業のDX化を総合的にサポートするプラットフォーム「Hirameki 7」を2022年7月にリリースし、既に26,000社を超えるお客様に導入いただいております。現状は無償サービス範囲での利用顧客が多いため、これから更なる有償サービスへの移行拡大、事業の収益化に向けて取り組んでまいります。

また、グループ会社においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受け、業績回復に想定以上の時間を要しており計画と実績に大きな乖離が生じております。

これらの結果、2025年度の経営目標の達成が難しい状況になったことを踏まえ、当社グループは次のステージに進むための新たな成長戦略として、「サステナビリティ 2030」と「中期経営計画 Vision2028」を策定しました。

2. 「サステナビリティ 2030」について

経済・社会環境が大きく変化する中で、MJSグループにおける将来の「ありたい姿」を明確にすることが大切であると考え、「サステナビリティ 2030」のビジョンを定めました。また、新たに、「気候変動に対する方針」と「人的資本経営に関する方針」等について策定し、併せて2030年度の数値目標を掲げております。継続的にサステナビリティ経営に取り組むことで、持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指してまいります。

(1) 「サステナビリティ 2030」のビジョン

MJSは1977年の設立以来、約半世紀に亘り、
会計・税務を中心とするERP事業を通して、
会計事務所とともに中小企業の成長・発展を支援してきました。
この先の50年も同様に、お客様の期待を超える価値創造に挑戦し、
最もお客様を大切にしている企業であり続けます。

また、地球環境のために、地域社会のために、日本文化のために、
そして社員が豊かな生活を実現できるように、
私たちは常に高い志をもって、超一流の専門企業を目指します。

MJS Value

お客様を大切に、そして社員の幸せを！

(2) 気候変動に対する方針・基本的な考え

近年の台風・豪雨とそれに付随して起こる洪水の頻発や被害の激甚化という急性リスク及び平均気温の上昇という慢性的リスクの高まりにみられるように、気候変動は、今日において解決が急務とされる社会問題の1つとなっています。当社グループは、サステナビリティ基本方針を掲げ、中小企業のサステナビリティ経営の推進を目指し、その実現のために「DX推進による地球環境への貢献」を基本方針の1つとし、事業を通じて気候変動に対応することを重要課題として位置づけています。

当社グループは、サステナビリティ基本方針である「私たちは、企業理念のもと、税理士・公認会計士事務所と共に、中小企業の成長・発展を支援し、また、中小企業のサステナビリティ経営を推進することで、持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指す」という使命を果たしながら、パリ協定で掲げられた国際的な目標達成を目指すべく、TCFD提言に沿った情報開示に取り組んでいきます。

<環境対策の指標と目標>

当社グループは、SBTiの1.5°C目標(※)を踏まえScope1およびScope2の温室効果ガス排出量を2030年までに2023年度比50%削減、2050年までに100%削減することを目指します。

※SBTiは、「Science Based Targets イニシアティブ」のことで、同イニシアティブは、産業革命前の水準に比べて地球の気温上昇を1.5°C以内に抑えるために、企業に対し、パリ協定に整合し、科学的知見に基づいた温室効果ガス排出削減目標を設定するように求めています。

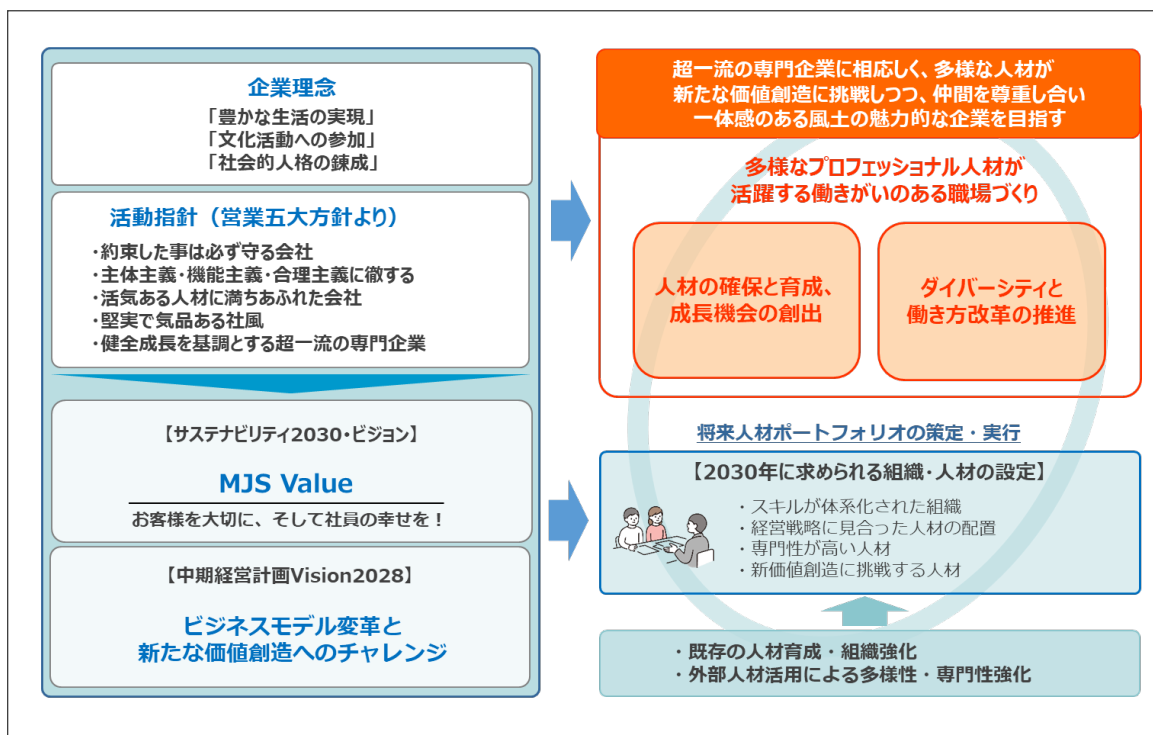
(3) 人的資本経営に関する方針

当社グループでは超一流の専門企業に相応しく、多様な人材が新たな価値創造に挑戦しつつ、仲間を尊重し合い一体感のある風土の魅力的な企業になることを目指し人的資本経営に取り組んでまいります。

多様なプロフェッショナル人材が活躍する働きがいのある職場づくりを行うことで、企業理念やサステナビリティ2030、中期経営計画Vision2028を実現します。

なお、当社のサステナビリティ経営に関する基本方針や取り組み等について、[コーポレートサイト](#)に詳しく掲載しております。気候変動に対する方針等に関しても本日プレスリリースしておりますので、ぜひご覧ください。

<経営戦略に連動した人事戦略へ>



<人的資本経営の指標と目標>

	2023年度実績	2025年度目標	2030年度目標
女性管理職比率：	12%	14%	21%※
女性採用比率：	42%	45%	50%
男性育児休業取得率：	36%	55%	85%
エンゲージメントスコア：	3.5P	3.7P	4.5P
男女の賃金差異：	80%	82%	87%

※人事施策を継続することで、2031年度以降も女性管理職比率30%を目指す

3. 「中期経営計画 Vision2028」について

(1) 中期経営計画 Vision2028 のありたい姿

MJSグループは、日本経済を支える中小企業の成長・発展のために、
会計事務所とともに中小企業に寄り添い、継続的に伴走支援します。
新たなDXコンサルティング・サービスやSaaS型ERPソリューションの創出、
さらに、統合型DXプラットフォームビジネスの推進など、
お客様に喜んで頂ける新しい価値を提供し、その成長・発展を支援します。
そして、ビジネスモデル変革を実現し、継続的な企業価値向上を目指します。

**ビジネスモデル変革と
新たな価値創造へのチャレンジ**

(2) 中期経営計画 Vision2028 の当社グループ経営目標

中期経営計画 Vision2028 の最終年度である 2028 年度において、過去最高の売上高・経常利益を達成することを目標としています。

当社単体の ERP 事業においてはサブスクリプション型収益モデルへの移行を加速することで、より安定的な収益構造と高収益体質を実現します。また、DX コンサルティングサービスと新たな SaaS 型 ERP システムを開発・提供してお客様の DX 化を支援し、カスタマーサクセス体制の下で顧客生涯価値の最大化を図ってまいります。

統合型 DX プラットフォーム事業においては、お客様の営業からマーケティング、案件管理までを一気通貫でデジタル化できるよう「Hirameki 7」の機能・サービスをさらに進化させ、また、当社製品との連携強化、当社販売網の活用等により収益性の向上を図ります。

グループ会社においては当社グループの成長戦略に即して各社の位置づけを明確にし、グループを再編・強化することでグループシナジーの強化と収益性向上を実現します。

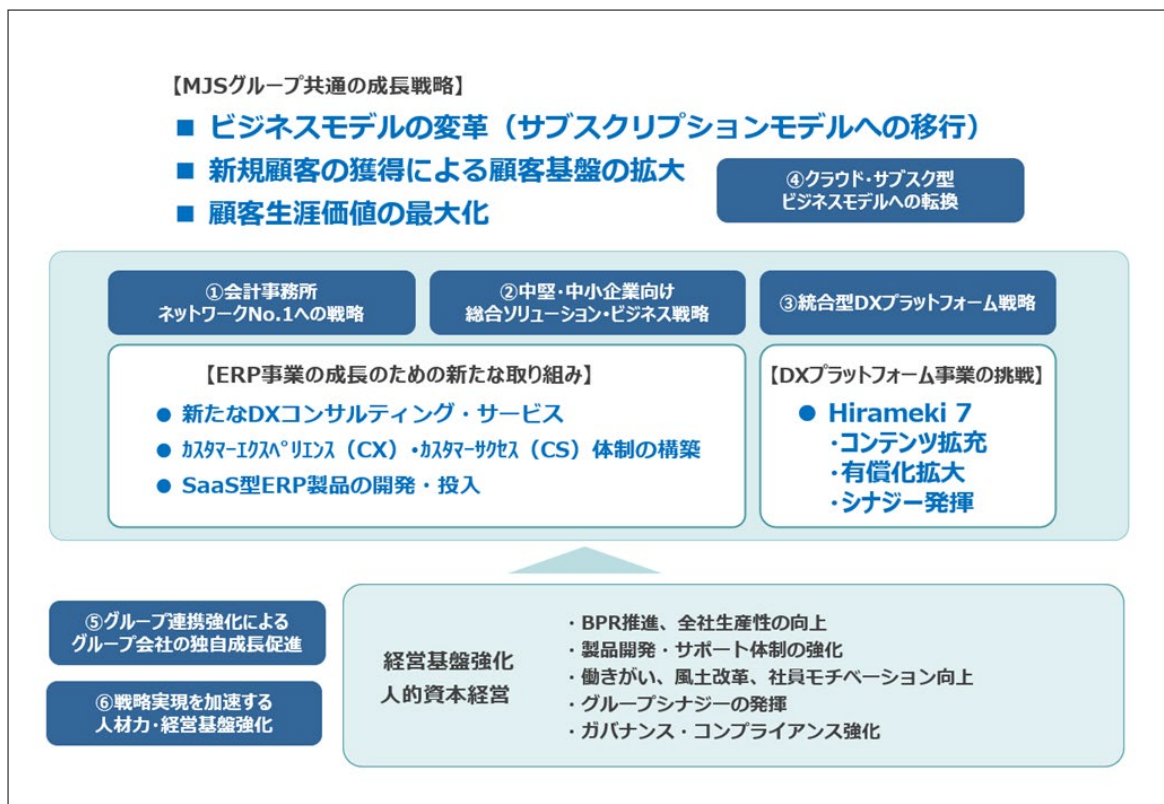
	2023 年度実績	2028 年度計画
売上高	439 億円	600 億円
経常利益	63 億円	120 億円
経常利益率	14%	20%

(3) 中期経営計画 Vision2028 の基本戦略

基本戦略の項目については、中期経営計画 Vision2025 において定めた 6 つの戦略から変更しておりません。各戦略に着実に取り組むことでビジネスモデルの変革、顧客基盤の拡大、顧客生涯価値の最大化を図り、当社グループの企業価値向上に引き続き努めてまいります。

- (1) 会計事務所ネットワーク No.1 への戦略
- (2) 中堅・中小企業向け総合ソリューション・ビジネス戦略
- (3) 統合型 DX プラットフォーム戦略
- (4) クラウド・サブスク型ビジネスモデルへの転換
- (5) グループ連携強化によるグループ会社の独自成長促進
- (6) 戦略実現を加速する人材力・経営基盤強化

<MJS グループ成長戦略（基本戦略の位置づけ）>



（注）本資料につきましては、現時点における入手可能な情報に基づいて算出しておりますが、実際の業績は今後の事業環境の変化等の様々な要因により、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。

以上